

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

帯広畜産大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	3
------	---

《本文》	4
------	---

《判定結果一覧表》	18
-----------	----

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

○：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※

●：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

【大学の基本的な目標（中期目標前文）】

帯広畜産大学の基本的な目標は、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝地域において、生命、食料、環境をテーマに「農学」「畜産科学」「獣医学」に関する教育研究を推進し、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じて地域及び国際社会に貢献することである。

第3期中期目標期間は、獣医学分野と農畜産学分野を融合した教育研究体制、国際通用力を持つ教育課程及び食の安全確保のための教育システムを保有する我が国唯一の国立農学系単科大学として、グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成することを目指し、以下の取組を重点的に推進する。

1. 欧米水準の教育課程の構築
2. 世界トップレベル大学等との国際共同研究及び教育交流
3. 国際安全衛生基準適応の実習環境による人材育成
4. 企業等社会のニーズに即した共同研究・人材育成

1. 本学は、昭和16年に創立した帯広高等獣医学校を原点とし、昭和24年に「民主的文化社会に教養豊かな人材を育成するとともに、農業に関する科学技術を教授研究し、農業合理化の発達に努め、人類の福祉と文化の振興に寄与し、産業経済の興隆に貢献すること」を目的として設置された。以降、昭和42年の大学院畜産学研究科の設置、平成2年及び6年の岐阜大学大学院連合獣医学研究科及び岩手大学大学院連合農学研究科への参加、平成24年の北海道大学との共同獣医学課程の開始、そして平成30年度の大学院畜産学研究科の改組を経て、現在に至る。
2. 研究体制については、平成12年に全国共同利用施設「原虫病研究センター」を設置した。同センターは平成19年に3種類の原虫病（ウマピロプラズマ病、ウシバベシア病、スーラ病）に関する国際獣疫事務局（OIE）のリファレンスラボラトリーに認定されたほか、平成20年には、アジア初の原虫病の世界的研究拠点として「動物原虫病の監視と制圧」に関するOIE コラボレーション・センターに認定された。平成21年には、全国共同利用の制度改革に伴い、共同利用・共同研究拠点として認定された。
3. 本学が位置する北海道十勝地方は、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃っている地域である。この地域には、本学のほかに北海道農業センター芽室研究拠点、十勝農業・畜産試験場等多くの試験研究機関が集積しており、国や地域の農業振興政策を支える重要な技術開発基盤地域となっている。本学が担う先端基礎研究及び開発研究の成果を実践する場として、また、「食を支え、暮らしを守る」高度専門職業人を育成する場として、この最適なフィールドを活用できることは、本学最大の強みである。

[個性の伸長に向けた取組（★）]

- 「欧米水準の教育課程の構築」について、本学は、社会のニーズに対応した質の高い獣医学教育を実施するため、平成24年4月から北海道大学と共同獣医学課程を開始し、第3期中期目標期間においては、さらに国際通用力のある獣医学教育を実現するため、山口大学・鹿児島大学の共同獣医学部と連携して教育課程の充実に努めるとともに、欧州獣医学教育認証の取得を目指す。

（関連する中期計画 I-1-(1)-①-1)

- 「世界トップレベル大学等との国際共同研究及び教育交流」について、本学は、我が国唯一の国立農学系単科大学として獣医学分野と農畜産学分野を融合した教育研究を推進し、第3期中期目標期間においては、獣医・農畜産融合の教育研究を世界トップクラス大学と連携して一層推進するため、平成27年4月に設置した「グローバルアグロメディシン研究センター」において、米国コーネル大学（獣医学分野）及び米国ウィスコンシン大学（農畜産学分野）と国際共同研究及び教育交流を推進する。
(関連する中期計画 I-1-(1)-①-4、I-2-(1)-⑨-1、I-2-(2)-⑪-1、I-4-(1)-⑭-1)
- 「国際安全衛生基準適応の実習環境による人材育成」について、本学は、食と農のグローバル化等を背景とする国際安全衛生教育の重要性に鑑み、平成26年3月に畜産フィールド科学センターにおいて日本の大学で初めて世界最高水準の食品安全マネジメントシステム認証（FSSC22000）を取得し、食品安全マネジメント教育に着手した。第3期中期目標期間においては、本取組を一層推進するため大学内に国際基準適応の実習施設群を構築し、同施設を活用した食品安全マネジメント教育を強化する。
(関連する中期計画 I-1-(1)-①-5、I-1-(2)-⑤-2)
- 「企業等社会のニーズに即した共同研究・人材育成」について、本学は、「日本の食料基地」である北海道十勝地域に位置する強みを生かし、平成25年度には地域連携推進センター（現：産学連携センター）内にインキュベーションオフィスを設置し、同オフィスへの企業の入居による共同研究の推進及び企業の実務家教員等による人材育成を開始した。第3期中期目標期間においては、インキュベーションオフィス入居企業を拡充して共同研究の充実を図るとともに、産業界等社会の要請に即した人材育成機能を強化する。
(関連する中期計画 I-1-(1)-①-6、I-2-(1)-⑩)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画（◆）]

ユニット1「日本の獣医学教育改革の推進」

- 国際水準の先進的な質の高い獣医学教育を行うため、北海道大学との共同教育課程を実施するとともに、国際的・社会的にリーダーとして活躍する獣医師の養成、我が国の獣医学教育の水準向上という観点から、山口大学と鹿児島大学の共同獣医学部とともに教育プログラムの開発と相互利用、国際認証の取得に向けた戦略的連携を推進する。
(関連する中期計画 I-1-(1)-①-1)

ユニット2「食と動物の国際教育研究拠点形成の推進」

- グローバル社会の要請に即した農学系人材を育成するため、獣医・農畜産学分野において、国際通用性を備えつつ、食の安全確保に資する教育課程及び10社以上の食品関連企業等との連携により即戦力人材を育成するとともに、「グローバルアグロメディシン研究センター」において、コーネル大学、ウィスコンシン大学等から研究者を招聘し、国際共同研究を推進する。
(関連する中期計画 I-1-(1)-①-4、I-1-(1)-①-5、I-1-(1)-①-6、I-2-(1)-⑨-1、I-2-(1)-⑩、I-4-(1)-⑭-1、II-2-(⑰)-2)

ユニット3「学長のビジョンとリーダーシップに基づく戦略的資源配分の推進」

- 大学の機能強化に資する優秀な人材を確保するとともに、日本の農学系研究者の流動性の向上により教育研究の活性化に資するため、重点分野への教職員配置、年俸制の強力な推進、学長裁量経費の大幅な拡充を実施する。
(関連する中期計画 I-1-(2)-④、I-2-(2)-⑪-1、II-1-(⑱)-1、II-1-(⑱)-2)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、帯広畜産大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を上げている	【4】 優れた実績を上げている	【3】 達成している	【2】 十分に達成しているとはいえない	【1】 達成していない
I 教育に関する目標	【4】 上回る成果が得られている					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 達成している		1	2		
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 達成している		1	2		
3 学生への支援に関する目標	【3】 達成している			1		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 達成している			1		
II 研究に関する目標	【4】 上回る成果が得られている					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 上回る成果が得られている		1	1		
2 研究実施体制等に関する目標	【2】 おおむね達成している			1	1	
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】 上回る成果が得られている					
	なし		1			
IV その他の目標	【4】 上回る成果が得られている					
1 グローバル化に関する目標	【4】 上回る成果が得られている		1			

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目 I-1-(1)）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 I-1-(1)-①	判定		判断理由
(教育課程) 農場から食卓までの幅広い領域を学際的視点で捉える能力、あらゆる現場に適応できる知識・実践力、地球規模課題解決等の国際的視野を備えたグローバル人材を育成するため、社会のニーズに対応し、国際通用力を持つ教育課程を構築する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「アジア初の欧州獣医学教育認証取得」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ アジア初の欧州獣医学教育認証取得 獣医系4大学が一致協力して教育カリキュラム改善、教育の質保証体制の整備等日本の獣医学教育の質の向上に貢献し、アジアで初めてとなる難易度の高い計画「欧州獣医学教育認証の取得」を早期に実現している。(中期計画 I-1-(1)-①-1)		

	<p>○ 有力米国大学との教育連携 QS 世界大学ランキング 2020 獣医学分野 3 位の実績を有するコーネル大学（米国）及び同農学分野 8 位の実績を有するウィスコンシン大学（米国）と組織的な交流関係を構築し、招聘外国人研究者による講義、海外教育プログラムの導入等の大規模な交流により教育課程を充実し、大学のグローバル化を進展させている。（中期計画 I-1-(1)-①-4） （特色ある点）</p> <p>○ HACCP 専門家資格取得者の輩出 農作物・食品等の国境を越えた流通拡大等を背景として企業等に早急に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、大学院における食品安全マネジメント教育プログラムを強化し、HACCP 専門家資格取得者を数多く輩出するとともに、同プログラムを大学院の学位プログラムに発展させている。（中期計画 I-1-(1)-①-5）</p> <p>○ 立地を生かした企業との連携 日本の食料基地に位置して実学を担う特色を生かし、企業等との共同研究に基づく研究テーマを選択する大学院生を増員して中期計画を達成し、産業界等における即戦力人材の育成を図っている。（中期計画 I-1-(1)-①-6）</p>	
<p>小項目 I-1-(1)-②</p>	<p>判定 判断理由</p>	
<p>（教育方法） 大学教育の質的転換を図るため、学士課程及び大学院課程の教育方法を充実する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標を達成している</p> <p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
<p>《特記事項》</p>		
<p>該当なし</p>		

小項目 I-1-(1)-③	判定		判断理由	
<p>(成績評価) 成績評価の厳格化を推進するため、多元的な成績評価システムを構築する。</p>	【3】	中期目標を達成している	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>	
			<p>《特記事項》</p>	
			<p>(特色ある点) ○ アセスメント・テストを用いた学修成果の可視化 平成 29 年度から IR コンソーシアムに加入し、会員大学間でのデータ比較による各種指標の客観性の向上や、会員大学との連携によるアセスメント・テストの改良及び導入によって、より発展的にジェネリックスキルと専門知識の両面から学修成果を可視化する取組を進めている。(中期計画 I-1-(1)-③)</p>	

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 I-1-(2))

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由)「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3 項目のうち、1 項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、2 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 I-1-(2)-④	判定		判断理由	
<p>(教員の配置) 大学の機能強化を推進するため、学長のリーダーシップにより重点分野に教職員を配置する。</p>	【3】	中期目標を達成している	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>	
			<p>《特記事項》</p>	
			<p>(特色ある点) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症対応のためのオンライン授業実施に先立ち、全学生の授業受信環境を調査し、脆弱な通信環境の学生に対しては Wi-Fi ルーター・パソコンの送付や学内における自学習エリアの確保によって、三密回避の環境下において授業受信を許可する措置を講じている。さらに、学生寮を含めた全学のネットワーク環境を整備するとともに、オ</p>	

	ンライン授業を録画して、自学自習を目的とした学生の利用に供している。また、オンライン授業の評価については、前期終了時に学生アンケートを実施し、満足度、学習環境、講義・実習の区分、GPA等の相関関係を分析し、専門分野（コース）ごとの会議で改善方策を検討している。また、オンライン授業に関するFD研修も実施し、これらの取組を通じて、学生がより快適に学べるよう更なる教育改善を実施している。	
小項目 I-1-(2)-⑤	判定	判断理由
(教育環境の整備) 獣医・農畜産分野の教育の高度化を図るため、教育方法の改善及び大学の機能強化に重点を置いた環境整備を推進する。	【4】 中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「国際基準適応実習施設の増加」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》	
	(優れた点) ○ 国際基準適応実習施設の増加 国際安全衛生教育の重要性に鑑み、大学内に国際基準適応の実習施設群を構築するため、第2期中期目標期間終了時点において国際規格取得施設が1施設のみであったものを、第3期中期目標期間の4年間で5施設に増加させている。本実習施設群において、企業等の国際標準規格の取得・維持に対応できる人材育成を図っている。(中期計画 I-1-(2)-⑤-2)	
小項目 I-1-(2)-⑥	判定	判断理由
(教育の質の向上) 教育の質を恒常的に維持し、教育内容及び方法を創造的に発展させるため、全学的な教学マネジメントを確立する。	【3】 中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》	
	該当なし	

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 I-1-(3))

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 I-1-(3)-⑦	判定		判断理由
全ての学生に豊かな学びの環境を提供するため、多様な学生支援・生活支援策を実施する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫		
	(特色ある点) ○ 図書館のアクティブ・ラーニング機能の強化 図書館のアクティブ・ラーニング機能を抜本的に改善するため、平成 30 年度に附属図書館機能改善工事に着手し、令和元年度に完了している。図書館利用者は改修工事着手前 (平成 29 年度) よりも 6.5% 増の 2,489 名増加するとともに、アカデミックスキル向上のための教育コンテンツを充実させている。(中期計画 I-1-(3)-⑦-3)		

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 I-1-(4))

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 I-1-(4)-⑧	判定		判断理由
大学入学者選抜方法を改善するため、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法を導入する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
≪特記事項≫			
(特色ある点) ○ 入学者辞退率の改善 平成 31 年度入学者選抜試験後期日程の個別学力検査において、アドミッション・ポリシーにより合致した学生を受け入れるために、センター試験の成績と調査書の内容を総合して選抜する従来の方法から、新たに小論文及び面接を加えて総合的に評価する方法に変更して実施している。その結果、当該試験日程畜産科学課程の入学者辞退率が、平成 30 年度の 52.5%から平成 31 年度の 8%に改善されている。(中期計画 I-1-(4)-⑧)			

II 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標をおおむね達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 I-2-(1)）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 I-2-(1)-⑨	判定		判断理由	
(研究水準、共同利用・共同研究体制) 我が国の農業関連学術分野の発展と地球規模課題解決に貢献するため、獣医学、農畜産学、生殖生物学、原虫病学及び関連分野の研究水準を向上させるとともに、全国の関連分野の研究者が結集するシステムを充実する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「原虫病研究センターにおける共同利用の促進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。 	
		≪特記事項≫		
		(優れた点) ○ 国際共著率の増加 大学全体の国際共著率は、平成21年から平成25年の37.5%から平成28年度は47.4%と増加し、さらに平成31年度は50.0%と計画を上回って達成している。また、国立大学法人全体の国際共著率は平成31年度は32.1%であり、平均を大きく上回る状況を維持している。(中期計画 I-2-(1)-⑨-1)		

	<p>○ 原虫病研究センターにおける共同利用の促進 原虫病研究センターにおいて、新たな共同利用・共同研究拠点事業として、「マダニバイオバンク整備とベクターバイオロジーの新展開」を推進し、平成 31 年度までに共同研究を 17 件採択するとともに毎年度国際シンポジウムを開催し、3 年間で約 150 名の参加者があった。本プロジェクトでは、マダニの識別・繁殖・供給システムから遺伝子情報までを網羅した日本初のマダニバンクの整備を進めており、実験室順化に成功したマダニは国内外の研究機関等において様々な試験研究モデルとして活用されている。(中期計画 I-2-(1)-⑨-2)</p>		
小項目 I-2-(1)-⑩	判定		判断理由
<p>(成果の社会還元) 我が国の農業を基盤とする産業競争力強化に貢献するため、農業関連企業・団体、公的試験研究機関等との研究連携を充実する。</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>(特色ある点) ○ 産学連携センター入居企業の増加 産学連携センター（旧地域連携推進センター）の入居企業を着実に増加させるとともに、同センターの共同研究・受託研究件数増加に向けた取組により、同件数は平成 28 年度の 104 件から平成 30 年度に 175 件（約 1.7 倍の増加）に達している。(中期計画 I-2-(1)-⑩)</p>		

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 I-2-(2))

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、1項目が「中期目標を達成している」、1項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 I-2-(2)-⑪	判定		判断理由	
<p>(研究者の配置)</p> <p>大学の機能強化を推進するため、学長のリーダーシップによる重点分野への教職員配置を推進するとともに、若手研究者及び女性研究者の採用を増加させる。</p>	<p>【2】</p>	<p>中期目標を十分に達成しているとはいえない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。 ・ また、「若手教員の採用比率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。 	
		<p>《特記事項》</p>		
		<p>(特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コーネル大学及びウィスコンシン大学との国際共同研究の推進 <p>コーネル大学及びウィスコンシン大学との間で、平成28年度から令和元年度の4年間で35件の国際共同研究を実施し、27本の国際共著論文を発表している。令和2年度以降は、新たな共同研究を開始するためのスタートアップ経費を支援するプログラムの整備、オンラインを活用したセミナーの実施等の共同研究の活性化に取り組んでいる。これらにより、令和2、3年度には28本の国際共著論文を発表し、第3期中期目標期間全体で55本の国際共著論文を発表している。(中期計画 I-2-(2)-⑪-1)</p> <p>(改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若手教員の採用比率の状況 <p>40歳未満の若手教員の採用比率を年平均60%以上とする目標について、53.49% (23名/43名) となっており、目標を達成していない。(中期計画 I-2-(2)-⑪-2)</p>		

	<p>● 女性教員の比率の状況</p> <p>女性教員の比率を15%以上にするという目標について、平成28年度12.1%、平成29年度14%、平成30年度12.9%、令和元年度13.8%、令和2年度14.8%、令和3年度14.2%となっており、一定程度の進捗は見られるものの、目標を達成していない。(中期計画I-2-(2)-⑪-3)</p>		
小項目 I-2-(2)-⑫	判定		判断理由
<p>(研究環境の整備)</p> <p>獣医・農畜産分野の研究の推進及び研究の質の向上を図るため、研究環境を充実する。</p>	【3】	中期目標を達成している	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 若手研究者に対する研究支援の強化</p> <p>若手研究者を対象とした様々な経済的支援策や外部資金獲得のためのスキル向上支援策を充実させて、若手研究者が研究に取り組みやすい環境を整備している。外部資金獲得のためのスキル向上支援制度を活用した申請者の半数以上が採択されるなど、大学全体においても外部資金申請数及び採択率が第2期中期目標期間と比較して増加している。(中期計画I-2-(2)-⑫-2)</p>		

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 I-3-⑬	判定		判断理由
我が国の農業を基盤とする産業競争力強化と活力ある地域づくりに貢献するため、企業、地方公共団体等と連携して取り組む社会貢献事業を充実する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「リカレント教育の拡充」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
《特記事項》			
<p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リカレント教育の拡充 「フードバレーとから人材育成事業」、「生産獣医療技術研修」、「牛人工授精師技術研修」のリカレント教育事業に加えて、第3期中期目標期間に新たに「HACCP システム構築研修」、「農業共生圏高度専門家人材育成事業」、「酪農後継者技術研修プログラム」、「馬生産プログラム」の4件を実施し、リカレント教育事業を第2期中期目標期間の3件から7件に拡充している。(中期計画 I-3-⑬-1) ○ 学生と市民の交流促進 学生と市民の交流を促進するために「リベラルアーツ講演会」を市民に開放するとともに、帯広市との連携による「若者がけん引するしごとづくり・まちづくりプラン推進事業」や「学生と地域がつながるまちづくり支援事業」を継続し、学生主体による地域創生事業に取り組んでいる。なお、馬介在活動室による「人と馬の絆による教育・研究・社会貢献活 			

	<p>動」が、教育・研究活動を通じた障がい者への生涯学習支援活動と認められ、平成 30 年度文部科学大臣表彰を受賞している。(中期計画 I-3-⑬-3)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症に係る社会貢献</p> <p>新型コロナウイルス感染症が顕在化して間もない令和 2 年 4 月に経済産業省の要請により、独立行政法人製品評価技術基盤機構から「次亜塩素酸水の効果」についての研究協力依頼を受け、獣医学におけるウイルス学を専門とする教員が効果の分析を行っている。この結果については、同機構のホームページなどで科学的な根拠とともに公開されている。</p>
--	---

IV その他の目標（大項目4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標を上回る成果が得られている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) グローバル化に関する目標（中項目 I-4-(1)）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 I-4-(1)-⑭	判定		判断理由
獣医・農畜産分野の教育研究を通じて人類の健康と国際社会の平和に貢献するため、海外大学、国際機関、国際協力機関との連携事業を充実するとともに、留学交流を推進する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「原虫病研究センターによる国際貢献」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	≪特記事項≫		
	(優れた点) ○ 獣医学と農畜産学の融合 世界トップクラス大学との教育研究活動を担当するグローバルアグロメディシン研究センターに重点的に教員を結集させたことによって、獣医学分野と農畜産学分野を融合した教育研究体制を強化するとともに、国際共同研究を推進することで、大学全体の国際共著率の向上を図っている。(中期計画 I-4-(1)-⑭-1)		

	<p>○ 原虫病研究センターによる国際貢献</p> <p>原虫病研究センターは、世界の約 170 か国が加盟して動物衛生の向上等を目指す政府間機関である国際獣疫事務局 (OIE) のコラボレイティングセンターとして、国際疫学調査、検査・診断を実施し、診断用スライドを海外に提供し、平成 31 年度は国際疫学調査 24 回、検査・診断 572 件、診断用スライド提供数 1,750 枚を実施している。また、平成 30 年度に OIE の依頼を受け、媾疫検査マニュアルを改定している。(中期計画 I-4-(1)-⑭-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 地球規模課題に対する国際協力</p> <p>我が国唯一の国立農学系単科大学として、食料・環境・感染症等の地球規模課題の解決に貢献するため、国際協力機構 (JICA) との連携により国際協力に資する人材育成及び開発途上国に対する支援を充実させている。また、第 3 期中期目標期間において新たに海外拠点を 2 か所設置するとともに、海外大学との学術交流協定を 4 件締結するなど、大学のグローバル化を図っている。(中期計画 I-4-(1)-⑭-3)</p>
--	---

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目1 教育に関する目標	【4】	3.54 うち現況分析結果加算点 0.37	【4】
中項目I-1-(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	3.33	【3】
小項目I-1-(1)-① (教育課程) 農場から食卓までの幅広い領域を学際的視点で捉える能力、あらゆる現場に適応できる知識・実践力、地球規模課題解決等の国際的視野を備えたグローバル人材を育成するため、社会のニーズに対応し、国際通用力を持つ教育課程を構築する。	【4】	2.38	【4】
中期計画I-1-(1)-①-1(★)(◆) (教育課程) 欧米水準の獣医学教育を実施するため、共同獣医学課程において、北海道大学、山口大学、鹿児島大学と連携し、臨床実習の充実等の教育カリキュラム改善を行うとともに、eラーニングコンテンツ共有システム・バーチャルスライドシステム等を利用した教育コンテンツを充実し、平成32年度に欧州獣医学教育認証を取得する。	【3】		【3】
中期計画I-1-(1)-①-2 学部学生の国際的視野を涵養するとともに卒後の社会実践力を育成するため、分野横断的な学際教育プログラムを平成30年度までに新たに3プログラム設置する。	【2】		【2】
中期計画I-1-(1)-①-3 職業人として生きるために必要な力を育成するため、畜産学部アドバンス制教育課程の基盤教育において、社会貢献・ボランティア活動のカリキュラム化、TOEIC等の外部試験の導入等を実施するとともに、北海道地区の国立大学との連携により構築した双方向遠隔授業システムを活用して多様な基盤教育科目を開設する。	【2】		【2】
中期計画I-1-(1)-①-4(★)(◆) 学部及び大学院教育の国際通用力を向上させるため、コーネル大学、ウィスコンシン大学との学術交流協定に基づき、招聘外国人研究者による講義、海外教育プログラムの導入等を実施する。	【3】		【3】
中期計画I-1-(1)-①-5(★)(◆) 国際安全衛生基準の認証取得・維持を実践できる人材を育成するため、大学院畜産学研究科畜産衛生学専攻において食品安全マネジメントシステム教育プログラムを実施し、平成30年度までに同専攻の50%以上の学生に専門家資格又は内部監査員資格を付与する。	【3】		【3】
中期計画I-1-(1)-①-6(★)(◆) 産業界等社会の要請に即した人材育成機能を強化するため、大学院畜産学研究科において企業の実務家教員等によるオーダーメイド型実務教育を推進し、同研究科所属学生が企業等との共同研究に基づく研究テーマを選択する比率を平成30年度までに全体の40%にする。	【2】		【2】
中期計画I-1-(1)-①-7(*) 企業等と学生の関係を深化させて就職へと円滑につなげるため、大学院生の希望職種に係るインターンシップの期間を2倍以上に長期化(2～4週間)するとともに、平成30年度までにインターンシップ経験者の割合を大学院修了生全体の30%以上にする。	【2】		【2】
中期計画I-1-(1)-①-8 高度な専門性を持つ人材に必要となる高い倫理観、社会性、コミュニケーション能力を育成するため、大学院畜産学研究科において、平成28年度に研究倫理教育、情報リテラシー教育を導入し、その理解度・満足度調査を毎年度実施して教育内容・方法を改善する。	【2】		【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目I-1-(1)-② (教育方法) 大学教育の質的転換を図るため、学士課程及び大学院課程の教育方法を充実する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画I-1-(1)-②-1 (教育方法) 学士課程における能動的学習(アクティブ・ラーニング)を推進するため、グループワーク、ディベート、ICTの活用等による双方向の授業を平成29年度までに実施するとともに、ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修等により教員の授業内容に応じた双方向の授業を理解させる取組を推進し、双方向授業を取り入れた授業科目数を増加させる。	【2】	実施している		【2】
中期計画I-1-(1)-②-2 学生の主体的な学びを促進するため、科目番号制(ナンバリング)及び履修系統図を充実するとともに、平成29年度までに学修ポートフォリオを導入し、学生自身が学習プロセスを認識して学んでいる実態を確認し教育指導に活用する。	【2】	実施している		【2】
中期計画I-1-(1)-②-3 国際化を推進するため、大学院畜産学研究所において、平成29年度までに全てのシラバスを英語化するとともに、平成31年度までに全ての授業科目を英語対応とする。	【2】	実施している		【2】
小項目I-1-(1)-③ (成績評価) 成績評価の厳格化を推進するため、多面的な成績評価システムを構築する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画I-1-(1)-③ (成績評価) 学生の学修成果を適切に測定・把握するため、平成29年度までにルーブリック等による成績評価方法を設定するとともに、学修行動調査、学修到達度調査(アセスメント・テスト)を実施する。	【2】	実施している		【2】
中項目I-1-(2) 教育の実施体制等に関する目標	【3】	達成している	3.33	【3】
小項目I-1-(2)-④ (教員の配置) 大学の機能強化を推進するため、学長のリーダーシップにより重点分野に教職員を配置する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画I-1-(2)-④(◆) (教員の配置) 国際通用力を持つ教育課程及び食の安全確保のための教育システムを構築するため、必要となる教職員及び実務家教員を雇用するための経費を学長裁量経費において確保し、欧米水準の獣医学教育、国際安全衛生基準の教育、獣医・農畜産融合の教育研究等の重点分野に配置する。	【2】	実施している		【2】
小項目I-1-(2)-⑤ (教育環境の整備) 獣医・農畜産分野の教育の高度化を図るため、教育方法の改善及び大学の機能強化に重点を置いた環境整備を推進する。	【4】	優れた実績を上げている	2.50	【4】
中期計画I-1-(2)-⑤-1 (教育環境の整備) 教育方法の改善を推進するため、平成31年度までに学生が主体的に学ぶためのICTを活用した学習支援システム及び双方向の授業を支援する設備を整備する。	【2】	実施している		【2】
中期計画I-1-(2)-⑤-2(★) 国際基準の教育環境を構築するため、平成31年度までに原虫病研究センター、動物・食品検査診断センター、畜産フィールド科学センター等において、国際安全衛生基準を取得する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

帯広畜産大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目I-1-(2)-⑥ (教育の質の向上) 教育の質を恒常的に維持し、教育内容及び方法を創造的に発展させるため、全学的な教学マネジメントを確立する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画I-1-(2)-⑥-1 (教育の質の向上) 教育の内部質保証システムの安定的運用を実現するため、大学教育センターにおいて、平成28年度にアセスメント・ポリシーを明確化し、それに基づく自己点検・評価によりPDCAサイクルを機能させる。	【2】	実施している		【2】
中期計画I-1-(2)-⑥-2 教育改革に関する基本的認識の共有及び教育方法に関する技術の向上を図るため、教職員に対するFD研修を実施し、教育改善の成果を学生の授業評価等により毎年度確認する。	【2】	実施している		【2】
中項目I-1-(3) 学生への支援に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目I-1-(3)-⑦ 全ての学生に豊かな学びの環境を提供するため、多様な学生支援・生活支援策を実施する。	【3】	達成している	2.25	【3】
中期計画I-1-(3)-⑦-1 外国人留学生の修学環境を充実するため、北海道地区の国立大学と連携し、遠隔授業システムを活用して入学前準備教育を実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画I-1-(3)-⑦-2 障がいのある学生に対する支援を強化するため、障がい学生支援組織を平成28年度に設置し、教育支援室、学生相談室、保健管理センターとの連携により障がいの種類に応じた教育方法、機器・施設整備方策等を企画・実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画I-1-(3)-⑦-3 学生の自学・自習を支援するため、図書館等にアクティブ・ラーニング等を実施するための教育コンテンツ・設備を整備する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画I-1-(3)-⑦-4 学生の就業力を向上させるため、平成29年度までに就職支援室と教育支援室の連携体制を担当教員の充実等により強化し、就職支援業務から得られる企業等のニーズ情報をキャリア教育、インターンシップに反映して実施する。	【2】	実施している		【2】
中項目I-1-(4) 入学者選抜に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目I-1-(4)-⑧ 大学入学者選抜方法を改善するため、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法を導入する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画I-1-(4)-⑧ アドミッション・ポリシーで求める学生を適切に選抜するため、多元的評価を重視した入学者選抜方法を検討し、平成30年度に大学入試センター試験を活用して新たな入学者選抜方法を導入するとともに、当該入学者選抜方法の評価・改善を実施する。	【2】	実施している		【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目2 研究に関する目標	【4】	上回る成果が得られている うち現況分析結果加算点 0.50	3.50 【4】
中項目I-2-(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	3.50 【4】
小項目I-2-(1)-⑨ (研究水準、共同利用・共同研究体制) 我が国の農業関連学術分野の発展と地球規模課題解決に貢献するため、獣医学、農畜産学、生殖生物学、原虫病学及び関連分野の研究水準を向上させるとともに、全国の関連分野の研究者が結集するシステムを充実する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00 【4】
中期計画I-2-(1)-⑨-1(★)(◆) (研究水準、共同利用・共同研究体制) 獣医・農畜産分野の世界レベルの研究実績による国際研究協力を強化するため、グローバルアグロメディシン研究センターにおいて、コーネル大学、ウィスコンシン大学から研究者を招聘して獣医・農畜産融合の国際共同研究を推進し、大学全体の学術論文の国際共著率を年平均40%以上にする。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画I-2-(1)-⑨-2 原虫病研究センターの共同利用・共同研究体制を充実するため、グローバルアグロメディシン研究センターの国際共同研究に参画して原虫病研究を推進するとともに、戦略会議による研究活動の点検・評価を実施する。また、原虫病研究センターが保有する研究成果有体物の情報公開を充実するため、対象有体物を増加させセンターのホームページに掲載するとともに、他機関を通じた情報発信を行う。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目I-2-(1)-⑩ (成果の社会還元) 我が国の農業を基盤とする産業競争力強化に貢献するため、農業関連企業・団体、公的試験研究機関等との研究連携を充実する。	【3】	達成している	2.00 【3】
中期計画I-2-(1)-⑩(★)(◆) (成果の社会還元) 農業関連企業・団体、公的試験研究機関等の要請に基づく研究を推進するため、産学連携センターのインキュベーションオフィスに入居する企業数を平成30年度までに10社に増加するとともに、共同研究及び受託研究を充実し、大学全体の実施件数を年平均130件以上にする。	【2】	実施している	【2】
中項目I-2-(2) 研究実施体制等に関する目標	【2】	おおむね達成している	2.50 【3】
小項目I-2-(2)-⑪ (研究者の配置) 大学の機能強化を推進するため、学長のリーダーシップによる重点分野への教職員配置を推進するとともに、若手研究者及び女性研究者の採用を増加させる。	【2】	十分に達成しているとはいえない	1.33 【3】
中期計画I-2-(2)-⑪-1(★)(◆) (研究者の配置) 世界の食、農畜産、公衆衛生の課題解決に貢献するため、グローバルアグロメディシン研究センターにコーネル大学、ウィスコンシン大学等から外国人研究者を招聘するとともに、国際共同研究担当の教員を配置する。	【2】	実施している	【2】
中期計画I-2-(2)-⑪-2 若手研究者の活躍機会を増やすため、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員のうち40歳未満の若手教員の採用比率を年平均60%以上にする。	【1】	十分に実施しているとはいえない	【2】
中期計画I-2-(2)-⑪-3 女性研究者の活躍機会を増やすため、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員のうち女性教員の比率を15%以上にする。	【1】	十分に実施しているとはいえない	【2】

帯広畜産大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目I-2-(2)-⑫ (研究環境の整備) 獣医・農畜産分野の研究の推進及び研究の質の向上を図るため、研究環境を充実する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画I-2-(2)-⑫-1 (研究環境の整備) 先端的な研究環境を構築するため、研究設備及び学術情報基盤の新規導入・更新を行うとともに、共同利用設備ステーションにおいて研究設備の共同利用を一括管理し、当該設備の利用頻度を増加させる。	【2】	実施している		【2】
中期計画I-2-(2)-⑫-2 若手研究者に活躍の機会を提供するため、大学独自のテニュアトラック制度を平成29年度までに整備するとともに、若手研究者の研究環境を整備するための経費を確保して配分する。	【2】	実施している		【2】
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
	なし	—	—	なし
小項目I-3-⑬ 我が国の農業を基盤とする産業競争力強化と活力ある地域づくりに貢献するため、企業、地方公共団体等と連携して取り組む社会貢献事業を充実する。	【4】	優れた実績を上げている	2.67	【4】
中期計画I-3-⑬-1 獣医・農畜産分野の職業現場におけるリーダーとして組織を牽引できる人材を育成するため、既存の社会人学び直し事業について受講者のアンケート結果に基づき講習内容を改善するとともに、新規事業を実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画I-3-⑬-2 大学の高度な専門技術を地域に還元するため、畜産フィールド科学センター、動物医療センター、動物・食品検査診断センター等において、各種検査・治療等を地域住民及び関係機関に提供する。	【2】	実施している		【2】
中期計画I-3-⑬-3 賑わいのある地域づくりに貢献するため、地方公共団体等との共同運営、経費分担等の連携により、学生主体の地域創生事業の実施件数を増加させる。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
大項目4 その他の目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
中項目I-4-(1) グローバル化に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
小項目I-4-(1)-⑭ 獣医・農畜産分野の教育研究を通じて人類の健康と国際社会の平和に貢献するため、海外大学、国際機関、国際協力機関との連携事業を充実するとともに、留学交流を推進する。	【4】	優れた実績を上げている	2.75	【4】
中期計画I-4-(1)-⑭-1(★)(◆) 獣医・農畜産分野の国際水準の教育研究を展開するため、世界トップクラス大学との連携事業等を推進し、グローバルアグロメディシン研究センターにおいて国際共同研究を担当する教員数を30人以上にするるとともに、世界トップクラス大学が実施する教育プログラムに学生を派遣する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画I-4-(1)-⑭-2 世界の動物衛生の向上に資するため、原虫病研究センターにおいて、国際獣疫事務局(OIE)のコラボレーティングセンター及びリファレンスラボラトリーとしての認定を維持し、家畜感染症に関する世界各国の専門家に対して研究成果、診断試薬、診断技術等を提供する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画I-4-(1)-⑭-3	開発途上国に対する技術協力を推進するとともに、国際協力を資する人材を育成するため、国際協力機構(JICA)との連携事業を毎年度継続して実施するとともに、海外拠点を新たに2カ所設置する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画I-4-(1)-⑭-4	海外留学希望者及び外国人留学生に対する支援体制を強化するため、イングリッシュ・リソース・センターにおける英語学習支援を増強するとともに、留学希望者に対する経済的援助の対象人数の増等、留学交流を推進するための取組を実施する。	【2】	実施している	【2】

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。